

始める前に用意するもの

- ・57-773 パンチニードル用フープ〈12cm〉(別売)
- または 57-774 パンチニードル用フープ〈18cm〉(別売)
- ・57-767/57-768 パンチニードル用ファブリック (別売)
- ・57-769 パンチニードル用ボンド (別売)
- ・毛糸…中細・合太・並太、またはそれに相当する太さの素材

パンチニードル用以外の生地はステッチがきれいに刺せません。
パンチニードル専用の生地をお使いください。

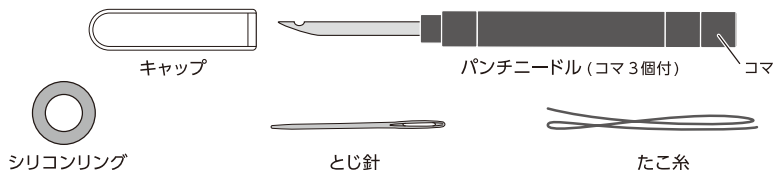
棒針表記で3~7号のストレートの毛糸
※3~7号表記でもすべての毛糸が適しているわけではありません

Punch Needle

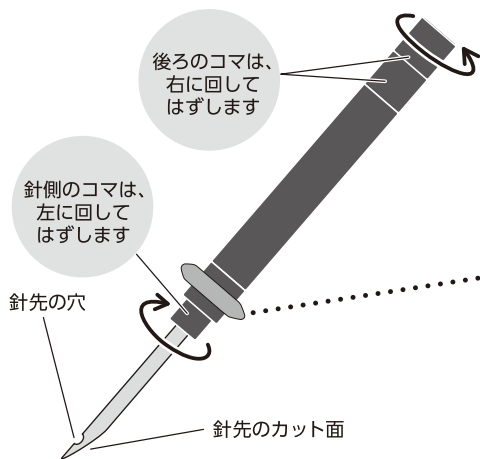
パンチニードル
3.5mm

使い方説明書

セット内容



パンチニードルの各部名称と針先の長さの変え方



コマを軽く回すとはずれ、パンチニードル本体の前後に付け替えて針の長さを変えられます。使う毛糸によって仕上がりの雰囲気が変わるので、お好みのループでお楽しみください。

POINT

付属のシリコンリングは、指当てとして付けられます。

※長時間指で押し続けると、ずれてくることがあります。



針側に付けるコマの数	針先の長さ ※購入時はコマを針側に1個付けた状態でセットされています コマ	使用の目安
3個	針先：2.5cm 	ループを小さくしたい時。ループがかなり小さく、毛糸が太くなるとはずれやすいので慎重に。 ループが小さいと感じたら、針側のコマを1個はずす。 ※ステッチ面を表にしたい時に使うと毛糸の節約になります。
2個	針先：3.5cm 	標準で使いやすい長さ。 ループが小さいと感じたら、針側のコマを1個はずす。
1個	針先：4.5cm 	標準で使いやすい長さ。 ループが大きいと感じたら、針側のコマを1個前に増やす。
0個	針先：5.5cm 	ループを大きくしたい時。

ループのイメージ (合太毛糸使用)

針側に付けるコマの数：

3個

2個

1個

0個

※わかりやすくするために、ループは寝かせています

糸の通し方

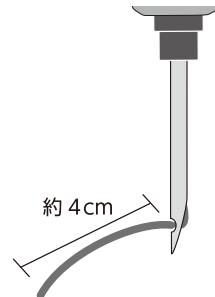
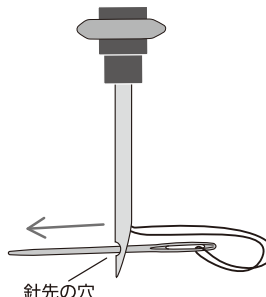
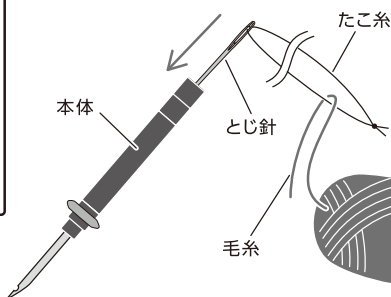
とじ針にたこ糸を通して固結びし、スライダーとして使用します。

※たこ糸は切らずに長いまま使用します。

① たこ糸の輪に毛糸を通し、とじ針を本体の後ろから入れます。

② 針先の穴にとじ針を通して毛糸を通します。

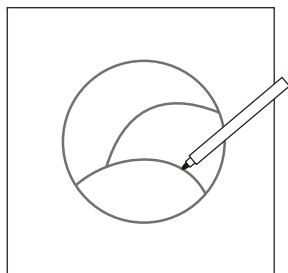
③ 毛糸は針先の穴から約4cm出しておきます。



図案の描き方

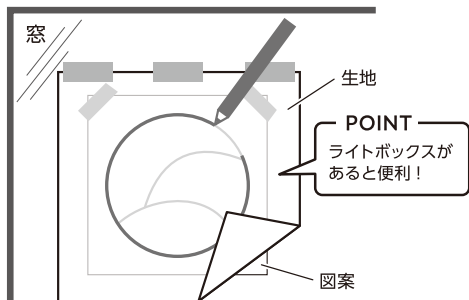
直接生地に描く場合

太めのペンやチャコペルで直接図案を描きます。



図案を写す場合 ※厚手の生地なので図案が透けにくいです。

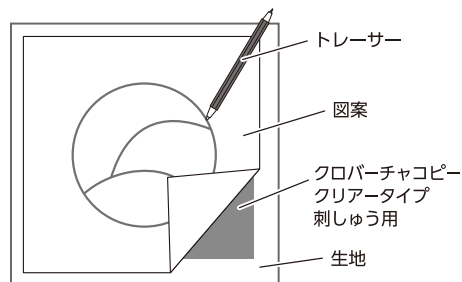
図案の上に生地をのせても見えない場合は、光で透けさせた状態にして写してください。



- ① 図案の紙を窓にテープなどで貼る。
※図案の線は太い方が見えやすいです。
- ② 図案の上に生地を配置し、片手で押さえる。
または、テープなどで固定して透けた図案を写す。

24-149

「クロバーチャコピークリアタイプ 刺しゅう用〈片面・青〉」(別売)を使って写す場合

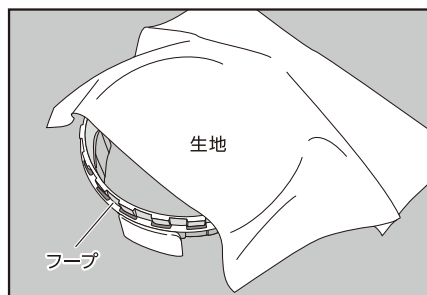


「クロバーチャコピークリアタイプ 刺しゅう用〈片面・青〉」を生地と図案の間に入れ、トレーサーなどで図案を写します。生地に凹凸があるので、筆圧を強めに何度も往復して写してください。

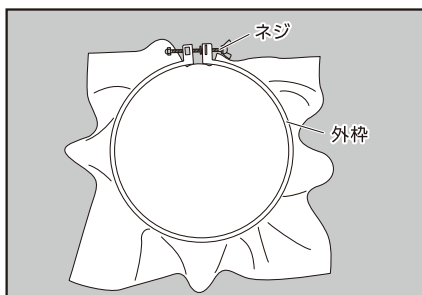
フープに生地を張る

針の長さに合わせて付属の脚で高さを変えられる専用のクロバーパンチニードル用フープをお使いください。

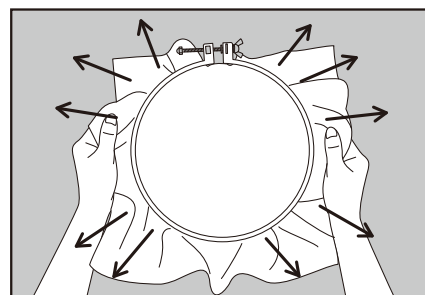
(専用のフープ以外を使うと、生地の張りが弱くてステッチがきれいに刺せなかったり、高さが足りず机などの台に針が当たり、破損の原因になります。)



① 内枠に生地をかぶせます。



② 外枠のネジをゆるめて枠を広げ、①にかぶせます。



③ 生地を引っ張り、ネジを少しずつ締めるという動作を数回くり返し、生地をピンと張ります。

※針先で机などを傷つけないために

- 生地はピンと張ってください。
- パンチニードルの針側に付けるコマが0~2個の時、必ずフープに脚を取り付けて使用してください。

POINT

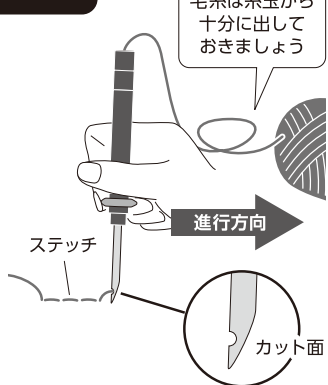
最後までネジを締めたら、生地の張りを確認してください。刺しているうちに生地がゆるんだと感じたら張りなおします。

ステッチを刺す

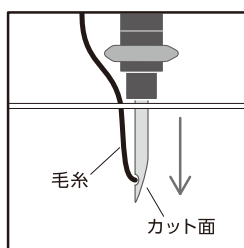
針先のカット面が進行方向を向くように刺し進めます。

POINT 毛糸によってステッチの間隔は変わりますが、3~5mm程の間隔を目安に刺してください。

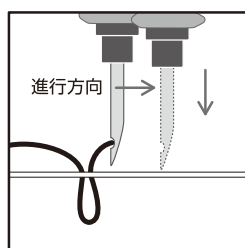
持ち方



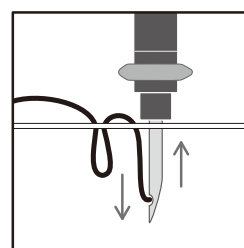
本体の後ろから出ている毛糸を、手や物で押さえたり、引っ掛けたりしないでください。ステッチがきれいに刺せなくなります。



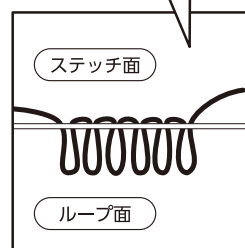
① 針の根元まで刺し、そのまま真上に引き上げます。



② 針の先端を生地から離さず滑らすように2針目を刺します。



③ そのまま真上に引き上げます。



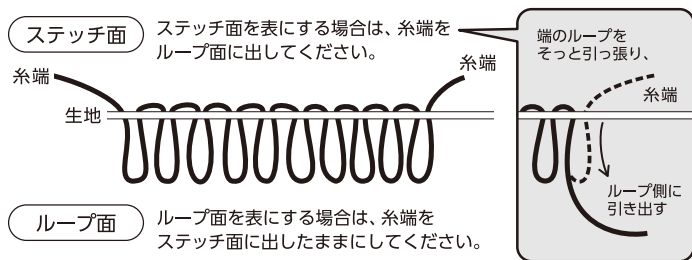
④ ①~③をくり返します。全て刺し終わったら、糸端は4cmほど残して切ってください。

POINT 針の先端を生地から離すと糸が抜けるので注意。

「ステッチの種類」、「糸始末の方法」、「図案」は裏面です →

ステッチの種類

ステッチは大きく分けてステッチ面とループ面の2種類。どちらも表として使えます。ループ面のアレンジとしてベルベット調があります。



ステッチ面

ループ面

ループ面はステッチ面よりひと回り大きくなります

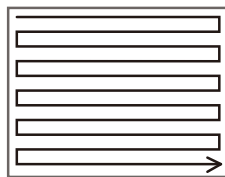
ループ面 アレンジ：ベルベット調

- ◆ 刃先がとがったはさみでループの先をカットしてください。
- ◆ 36-666 クロバーカットワークはさみ(別売)が便利です。

ベルベット調にする時は、必ずステッチ面を糸始末してから、ループの先をカットしてください。
(「糸始末の方法」の1を参照)

ステッチの埋め方

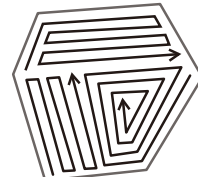
▼ 端から埋める



▼ 外から埋める



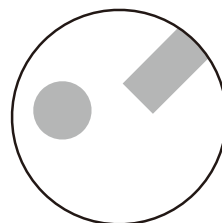
▼ ばらばら



きれいに図案を埋めるには、刺したステッチの真横を常に刺すイメージを進めてください。ループは裏側にできるので、時々裏返して確認し埋まっていない部分があれば、上から刺してください。

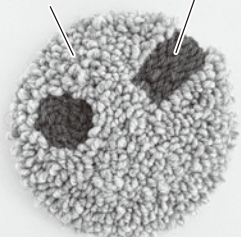
ステッチのアレンジ

ステッチ面とループ面をミックスさせることもできます。両面に図案を描いて、途中で生地を裏返し、フープに生地を張りなおして表裏を変更します。



ループ面

ステッチ面



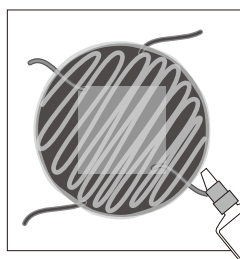
ステッチ面がへこみ、ループ面が出ます。

例) ■部分をステッチ面、□部分をループ面にしたい場合、先に■部分をステッチした後にフープからはずし、裏側を表にして張りなおし、□部分をステッチします。

糸始末の方法

表にしたい面に糸端が出ていないか確認します。もし表側に糸端が出ていた場合は、糸端とつながったループをそと裏側から引っ張り、糸端を裏側に出します。

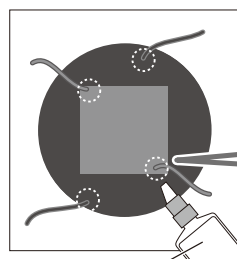
- 1 ポーチなど、使用時にループを引っ掛けそうな作品や、ループ面をベルベット調にしたい作品の時に



モチーフ全体に塗り、ボンドのハケ型ヘッドを使って広げる。

ボンド

- 2 ファブリックパネルやコースターなど、ループを引っ掛けにくそうな作品の時に



糸端の根元に塗って、乾いたら糸をカット。

ボンド

パンチニードルのチェックポイント

▼ ステッチの糸が抜ける時は

- 引き上げた時に針先が生地から離れていませんか？
…ステッチを刺す⇒②を確認
- 専用の生地を使用していますか？
…専用の生地以外を使うと、ステッチの糸が抜けたり、生地が破れて穴が開く場合があります。専用の生地をご使用ください。
- 専用のフープを使用していますか？
…生地の張りが弱いと糸が抜けやすくなります。専用のフープをご使用ください。

- 針先は根元まで刺して、真上に引き上げていますか？
…ステッチを刺す⇒①を確認
- 針先のカット面は進行方向に向いていますか？
…ステッチを刺す⇒「持ち方」と②を確認
- 毛糸は十分に出ていますか？
…ステッチを刺す⇒「持ち方」を確認
- 毛糸が何かに引っかかっていませんか？



パンチニードルのコツ

▼ ステッチをやり直すには

- ・糸を引っ張って抜きます。一度ステッチをした部分が刺しにくい場合は隣の織り目を刺すか、爪で生地の目を揃えてから刺します。

▼ 洗濯する時は

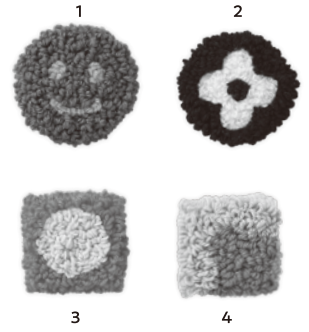
- ・やさしく手で押し洗いしてください。また、使用する毛糸の洗濯表示を必ず確認してください。乾かす時は日陰で平干ししてください。

用意する道具

- ・パンチニードル
- ・パンチニードル用フープ〈12cm〉(57-773)
または パンチニードル用フープ〈18cm〉(57-774)
- ・パンチニードル用ボンド(57-769)
- ・縫い針
- ・はさみ

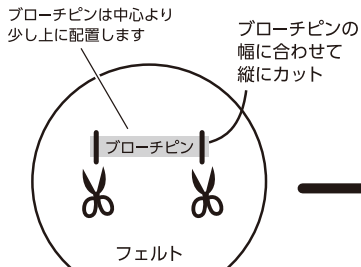
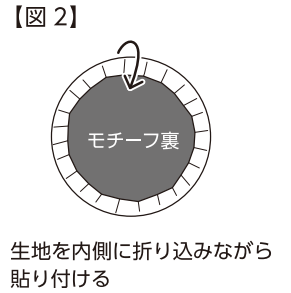
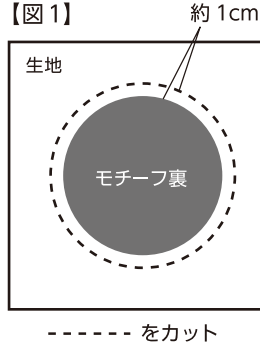
用意する素材

- ・パンチニードル用ファブリック(57-767/57-768)
 - ・お好みの毛糸
 - ・手縫い糸
 - ・フェルト
 - ・ブローチピン
- 作品1と2...7×7cm
作品3と4...6×6cm
- ※写真の作品例は中細毛糸と並太毛糸を使用しています。



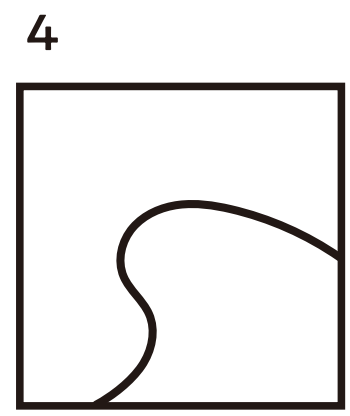
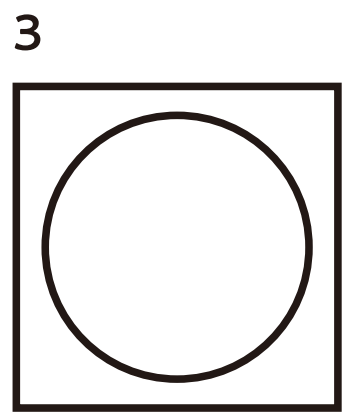
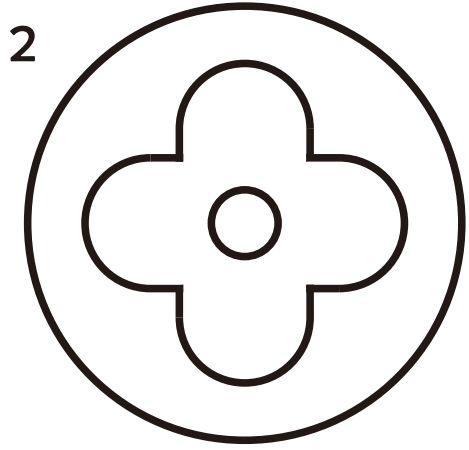
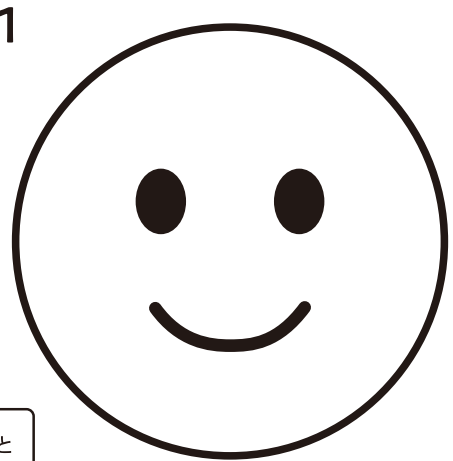
作り方 (写真の作品例は、パンチニードルの針側にコマを2個セットして作っています。)

1. 図案を生地に写し(説明書表面の「図案の描き方」を参照)、お好みの毛糸でステッチする。
2. 糸端をボンドで処理したら、図案の周囲約1cm外側で生地をカットする。
【図1】
3. モチーフ裏面の周囲にボンドを塗り、生地を裏側に折り込みながら貼る。
【図2】
4. 1でコピーした図案の型紙に合わせてフェルトを丸く切り抜き、ブローチピンに合わせて切り込みを入れる。切り込みにブローチピンを通し、ボンドで貼り合わせるか、フェルトの周囲とモチーフを合わせてかがる。



アレンジ
.....
倍率を変えて大きな作品にしたり、リボンを挟んでチャームにしても!

POINT
くちの線の部分は1往復するときれいに線が出ます。作品の表を確認しながら慎重に刺してください。



△ 注意
安全確保のため取り扱いにご注意ください。

使用上の注意
・針先は尖っているので、取り扱いにご注意の上、お子様の手の届かない所にキャップを付けて保管してください。
・針先の変形の恐れがありますので、必ずクロバーの専用のフープをご使用ください。

▼商品に不都合な点がございましたら、クロバー(株)「お客様係」までお問合せください。

クロバー株式会社
〒537-0025 大阪市東成区中道3-15-5
「お客様係」TEL.(06)6978-2277

⑤ 本商品や使い方説明書を無断で複製し配布することを禁じます。

© 2024 CLOVER 042402